

## 第4回みえインバウンド誘客計画検討有識者会議 概要

- 1 日時 令和8年4月20日（月） 14時00分から15時15分まで
- 2 出席者 石阪委員、伊与田委員、柴原委員、須崎委員、高木委員、本保委員、三重野委員、山田委員
- 3 主な意見
  - (1) 全体
    - ・大きな方向性や内容について、特に異議はない。
    - ・訪日外国人旅行者は一部の地域に偏在して増えていくため、三重県の場合は伊勢周辺から増加していき、他のエリアに広がっていくと予想される。関係者との連携を通して、地域住民の生活と両立できるようモニタリングしていくことが重要。
    - ・国の観光立国推進基本計画に記載があるように、インバウンド誘客は住民生活との両立が重要であり、住民満足度も意識した方が良い。
    - ・三重県は日本人宿泊者が多い中でのインバウンドの受け入れ対応となるため、閑散の時期・エリアに訪日外国人旅行者を誘客するといった視点があってもよい。
  - (2) 重点市場
    - ・開拓市場については人口の増加に加え、生産年齢人口で考えていくことが重要。
  - (3) 計画の目標
    - ・数値項目は10年後の目指す姿をふまえ、質と量の双方を加味したものとなっており評価できる。設定する数値目標を達成するだけでなく、地域の偏在や日帰り率の把握などをモニタリングできるとなお良い。
  - (4) その他
    - ・インバウンド誘客は人材や財源の確保に加え、官民の連携が大切となる。きちんと組織化してフィードバックを通じた仕組みが大切となる。
    - ・宿泊税の導入を検討すべき。一般財源にするのではなく、観光事業者の意見を聞いて観光財源とする必要がある。